

## 共通基礎科目「学校組織のリーダーシップ」 －四国3大学での遠隔授業の試み－

教育実践高度化専攻 露口健司

### 授業の到達目標

授業の到達目標は、「校区レベルで人々を動かすために、自校（実習校）の問題を洗い出し、目標・戦略・評価の観点から、変革のための具体的方法を提案することができる」である。

### 授業計画

本授業は、2回1セットの構成となっている。1回目の講義において知識を習得するとともに実践調査課題を設定する。その後、1週間かけて勤務校（実習校）において、組織調査を行い、その結果を2回目の講義で発表し、協議を行う。本年度の受講生は、下記に示す7テーマに取り組んだ。

- ①危機意識の共有化をいかにして図るか
- ②ビジョンと組織文化の変革
- ③目標管理に適した公正型リーダーシップ
- ④チームワークを高めるリーダーシップ
- ⑤校区につながりを築くリーダー
- ⑥保護者との信頼を築くリーダーシップ
- ⑦リーダーシップの持論づくり（遠隔授業）

### 授業方法

1班3-4名の5グループを単位として、毎回の学習課題に取り組んだ。各グループのリーダーはリーダーシップ開発コースの現職教員であり、彼らがストレートマスターによる実習校での調査を支援している。1グループの発表時間を15分として、10分の発表、2分のグループ内協議、3分の全体協議とした。最後に、全体協議の時間も設けた。

遠隔授業では、事前協議30分、講話60分、事後協議30分の構成をとった。これを午前と午後で2セット実施した。

### 授業評価

本年度の最終テーマである、「リーダーシップの持論づくり」は、鳴門教育大学・香川大学・愛媛大学の3大学を通信ネットワーク

で結ぶ遠隔授業システムを活用し、実施した。遠隔授業は8/29-8/30の2日間において実施され、第1日目は愛媛大学、第2日目は鳴門教育大学が担当した。授業の様子は、愛媛大学教育学部HP(9/8付)及び日本教育新聞(9/25付)において紹介されている。

遠隔授業の受講者は2日間のべ60名であった。自由記述アンケートでは、以下のような意見が記述されていた。授業内容よりも交流やシステム運用に関する記述が多く、次年度以降の改善課題であると実感した。

- ・四国四大学で設定されている授業をどの大学からも受講でき、院生の授業選択の幅が広がる。
- ・同じ授業を同時に受講できることから、他大学の院生との交流も可能となり、多様な視点からの意見交換が可能となる。
- ・バーチャルであるが院生の感覚として、他大学の院生と一緒に学んでいる協働感や心地よい緊張感も感じられた。
- ・テレビ画面を通しての授業視聴は疲労しやすく、初期は1時間程度で休憩が必要と感じた。
- ・演習を実施する際、大学横断型のワークショップ等はやりづらく、システムの機能の範囲の中での実施となる。

### 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本講義では、連携協力校での実習において授業で学んだことを生かし、また、実習校の実態を学習した視点から分析するという、新規性の高い授業形態を採用している。連携協力校は、教職大学院にとっての地域社会である。日常的なつながりを活用して、本講義は運営されている。

